



おもすの森

発行
大本山本門寺根源
山務庁
富士宮市北山4965
電話 0544-58-1004

護山会「三十万人講基金」

平成十一年に本門寺護山会「三十万人講」を發足致しました。当「三十万人講」に於いては、来る令和十三年の日蓮大聖人七五〇遠忌を始め、令和十四年の御開山日興上人御正当七〇〇遠忌に向け、本門寺山内の整備及び護持の為、広く全国各御寺院檀信徒からの御支援御丹精を戴いております。

決算報告

令和五年度三十万人講特別会計の決算が監査会にて承認されました。会員の皆様に御報告申し上げます。繰越金につきましては、上述の通り遠忌事業等を控え、三十万人講基金の支出を極力抑えつつ、来る正当年の事業に向け充当することを計画しております。

収入 百七十一万円
件数 三十一件
令和五年度残高 五千六百八十七万六千六百八十一円
以上

塔中末寺護山志納金の御礼

執事長

鈴木春雄

令和三年度より毎年実施しております塔中末寺による毎年の本山護持志納について、各山各聖の御理解を頂き、御志納を賜り、篤く御礼申し上げます。

また塔中寺院には、更なる特別志納の御丹誠を頂き、誠にありがとうございます。ごさいます。

日蓮大聖人七百五十遠忌、御開山日興上人七百遠忌を控え、信仰の礎である生御影尊を格護し続けるには、塔中末寺及び檀信徒の篤い信仰がなければ護寺することができません。ここにその証としての尊い御志納を賜り、重ねて御礼申し上げます。

令和五年度護山志納

塔中末寺志納	四百三十万円	久成寺様	（山梨）	宗川寺様
塔中特別志納	七十万円	東陽坊様	福泉寺様	蓮妙寺様
合計	五百万円	本照寺様	伊豆国分寺様	蓮華寺様
末寺三十一ヶ寺	※令和六年三月末日までの御志納	妙善寺様	法輪寺様	本能寺様

立正安国の祈り

日蓮大聖人の代表的著述は『立正安国論』です。文応元年（一二六〇）七月十六日、北条時頼に提出されたことはあまりにも有名です。また、弘安五年（一二八二）九月二十五日、武州池上にて最期を迎えるに際し『立正安国論』を講義されたことも周知の通りです。

古来、日蓮大聖人の御生涯は『立正安国論』に始まり『立正安国論』に終ると言われるのはこの為です。日蓮大聖人は御生涯を通して立正安国の祈りを捧げられていたのです。ところで、立正とは「正法を立てる」ことであり、安国とは「国を安んずる」ことです。いまこの世が乱れているのは、正法が隠没しているからであり、故に闘争堅固の世をまぬがれないのです。安国を祈るならば、すべからず「正法を立てる」ことが優先されねばなりません。

『立正安国論』にはつぎのように説かれています。

汝早く信仰の寸心を改めて、速かに実乗の一善に帰せよ。しかればすなわち三界は皆仏国なり。仏国それ衰えんや。十方は悉く宝土なり。宝土何ぞ壊れんや。国に衰微なく、土は破壊なくんば、身はこれ安全にして、心はこれ禅定ならん。この詞、この言、信ずべく崇むべし。

「実乗の一善に帰せよ」とは大漫荼羅御本尊に向かい南無妙法蓮華経と唱えることにほかなりません。いま世界は立正安国とはほど遠い状況にあります。このような社会情勢にあるからこそ、皆様には南無妙法蓮華経の功德を信じて、立正安国の祈りを捧げていただければ幸いです。



檀信徒用御経本 再版

檀信徒用御経本「本門要軌」をこの度再版致しました。寺院の布教活動にご活用頂き、また御家庭において、日々の勤行に是非ご利用下さい。御希望の方は、当山寺務所まで御連絡下さい。



檀信徒用御本尊のご案内

皆さまのご家庭に奉安する御本尊を御用意致しました。この御本尊は、日蓮大聖人が日興上人の弟子である日華上人に授与された御本尊の複製で、京都の本山・本能寺に原本が格護されており、四十七世・片山日幹猊下が影印を拝受し本門寺本堂・生御影尊の後ろに奉奠されているものと同じものです。お問い合わせは、本門寺根源山務庁までお願い致します。

御案内

御大事御本尊会

日時 令和六年七月二十四日
土用丑の日 午前十時

場所 本門寺根源 本堂

疫病退散のいわれのある靈験あらたかな御大事御本尊を御開帳し、襦袢い（しきみはらい）にて皆様の身体健康・無病息災を御祈念致します。年に一度の奉奠ですので、お誘い合せの上ご参詣下さい。

疫病退散
御大事御本尊御守
衆病悉除

「身代り守り」頒布

御大事御本尊御守

御霊宝疫病退散の御大事御本尊を複写し、身代り守りとして特別に頒布しております。皆様の菩提寺である末寺寺院が窓口でございますが、郵送でも承っておりますので、ご要望の方は、ご連絡ください。電話〇五四四一五八一〇〇四

『本門要軌』を読む 第二十二回
布教伝道部執事 阿部 和正

讚歎として唱える『御義口伝』の要文は、『御義口伝』中「廿八品悉南無妙法蓮華經事」の結文で、當章の開文「御義口伝に曰く、一經とは本迹廿八品也。唯だ四とは名用體宗の四也。樞柄とは唯題目の五字也。授與とは上行菩薩に授與する也。之とは妙法蓮華經也。」と兩文に説示される内容は一致しております。讚歎に説く内容を前後二点に要約しますと、前半は末法弘通の要法に南無妙法蓮華經の五字七字となりま

である。そこで特に「讚歎」として「御儀口伝」の御文を誦し、「勸信」として經文並びに祖訓により、題目の深意と末法救済の要法たることを、妙行中に信得せしめるようにするとともに、最後題目三唱に際しても「帰依」として本宗の妙行は畢竟題目受持の一行にあることを明らかにした。「妙行聖典」(刊行のことば)一七五―一七六頁)。続いて第四十八世日諱貫首殿下も「御義口伝の二十八品悉く南無妙法蓮華經の事の結文にしても、古来幾多の先師がこれを取り上げて、開經偈文とし、唱題成仏義として引用してきたもので、いわば要中の要であり肝心の要で、末法今時における布教伝道の要文として、卓越した賞揚すべき金言。」(『日興上人の風光』一〇四頁)と示されており、この信仰姿勢は今日も引き継がれ、『本門要軌』の行儀に於ても、御題目三唱に始まり、途中の道場觀・奉請・讚歎・御聖訓・回向等の最後には南無妙法蓮華經の一唱で結び、正行の口唱題目はもちろん、御題目三唱に終わり、前後中間に南無妙法蓮華經の七字に結ばれる構成となっております。

弟子旦那↓受持成仏の次第になります。宗祖は「問うて曰く、仏法を滅尽するの法、何ぞ之を弘通するや。答えて曰く、末法に於ては大小・権実・顯密共に教のみ有りて得道無し。一閻浮提皆謗法と為り了んぬ。逆縁の為には但妙法蓮華經の五字に限るのみ。例せば不輕品の如し。我が門弟は順縁、日本国は逆縁なり。(略)日蓮は広略を捨てて肝要を好む。所謂上行所伝の妙法蓮華經の五字也。」(『法華取要抄』『本門要軌』八九―九〇頁)末法の応時、逆縁の日本国に於て、本佛釈尊より特別付囑を受けた上行菩薩の応現・宗祖直伝の題目を以て、私達衆生はこれを受持し成仏を得る旨が説かれます。受持成仏とは、宗祖が「在世の本門と末法の初めとは一同に純円なり。但し彼は脱、此は種なり。彼は一品二半、此は但題目の五字なり。」(「觀心本尊抄」定本七一―五頁)と教示されます。佛の在世は寿量品他の一品二半の教えにより、解脱の利益を得るも、佛滅後の末法に於ては、佛種(御題目の五字)を、衆生の心田に下種する五字の受持の利益で、即時に成仏を得る。佛の末法衆生教化の次第が示されており、今日の本化直参の生御影信仰に繋がります。御儀口伝は末法の大切な信仰軌範を示し、當軌範に『本門要軌』も則っております。

(続く)

法華經に学ぶ 第二十三回
布教伝道部 浦野 弘正

法華經の対告衆、菩薩さま方
前回はお釈迦様のお弟子方をご紹介しました。

その後、名前が挙がるのが、菩薩さま方です。「智慧の文殊」で有名な文殊師利菩薩さまをはじめ、觀世音菩薩さまなど、お名前が挙がっている十八人の菩薩さまを中心に、覺りを求めて後戻りすることなく精進を続ける菩薩さま方が八万人ありました。

序品でお名前が出てくる菩薩さまが、どの章に登場するかを一覧表にしました。それぞれの菩薩さまがどんな方かの説明は、クローズアップされる章に差し掛かった時にします。

さて、ここまで「一万二千人」とか「二千人」「六千人」「八万人」と、多くの大きな数字が出てきていますが、実際の人数がそれほどであったわけではなく、「その人数が多いこと」を表す数字だと思っておきたい。お釈迦様の教えが「八万法蔵」「八万四千の法門」と表現されたように、その数が膨大なことを強調するための表現がこの先も多く出てきます。

法華經の対告衆、様々な神さま

法華經の会座に座って教えを待っていたのは人だけではありません。さまざまな神様たちも、靈鷲山の中で法華經の教えが説かれる

表【序品に登場する菩薩の一覧】

名前	読み	登場章
文殊師利菩薩	もんじゅしり	序品-提婆品など
觀世音菩薩	かんぜおん	序品-普門品
得大勢菩薩	とくだいせい	序品-不輕品
常精進菩薩	じょうしょうじん	序品-法師功德品
不休息菩薩	ふくそく	序品
寶掌菩薩	ほうしょう	序品
藥王菩薩	やくおう	序品-法師品など
勇施菩薩	ゆうぜ	序品-陀羅尼品など
寶月菩薩	ほうがち	序品
月光菩薩	がっこう	序品
満月菩薩	まんがち	序品
大力菩薩	だいき	序品
無量力菩薩	むりょうりき	序品
越三界菩薩	おっさんがい	序品
颯陀婆羅菩薩	ばつだばら	序品
弥勒菩薩	みろく	序品-涌出品など
宝積菩薩	ほうしゃく	序品
導師菩薩	どうし	序品

のを待っていました。この神様方は「梵天王」「釈提桓因(帝釈天)」「天子衆」「四大天王(四天王)」「龍王」「緊那羅王」「乾闥婆王」「阿修羅王」「迦樓羅王」という種族の神様です。梵天王さまから四大天王までの神さまを一括りに「天部衆」と呼び、序品には出て来ませんが、後には出てこられる「夜叉衆」「摩羅羅伽衆」という神さま方

を合わせて「天龍八部衆」と呼びます。この神さま方は、御經文の中では繰り返し「人非人」と出てきますが、「人の姿に近いけれど人ではない神さま方」を総称してこう呼びます。本来、仏さまや神様は「一柱、二柱」と数えますが、この解説では尊敬と親しみを込めて「一人、二人」とお呼びすることにします。(続く)

重須会 相模門中参拝

重須会は六月四日、「門中参拝」として神奈川方面の四カ寺に参りました。

茅ヶ崎・蓮妙寺(末寺)

本門寺第十世・日殿上人の開山で、小田原の城外にあった蓮成寺を一五七二年に現在の地へと移転し、現在に至ります。

令和三年に、当山役課の紋田正隼上人が住職として法灯を継承し、山務の傍ら、本山に今も御給仕頂いています。



海老名・常在寺(末寺)

一三三三年に復興され、現在に至ります。御開山は日興上人の本弟子六人の一人、大

輔阿闍梨・日乘上人です。関東大震災の折に被災しましたが、先師上人や檀信徒の丹誠もあつて復興し、現在寺観が整備されています。



厚木・本禅寺(末寺)

本門寺第十二世日賢上人の御開山で、一五五四年に小田原にて本蓮寺として成立したお寺です。一六二二年に現在の地へと再建し、平成七年に文化財指定された、一六四一年当時の本堂は、令和五年に修復が終わりました。



新寂回向事務局より

御本堂におきまして、各御霊位の御回向を申し上げます。

- 養運坊檀徒 故 井出 久子様
西之坊檀徒 故 川嶋 軍司様
西之坊檀徒 故 和田 房子様
養仙坊檀徒 故 朝日 國光様
蓮行坊檀徒 故 桑原登喜子様
蓮行坊檀徒 故 井出 幸代様
養仙坊檀徒 故 早川 節子様
本光寺檀徒 故 石塚 正己様
本光寺檀徒 故 遠藤さかえ様
本光寺檀徒 故 武井 邦子様
本光寺檀徒 故 森 美恵子様

五月末日迄 申込み・申請順
ご冥福をお祈り申し上げます

鈴木春晴師 披露宴

五月十二日(日)養仙坊次男、鈴木春晴上人の結婚披露宴が日本平ホテルにて執り行われました。

本山参与上杉清文上人を式長に、仏祖三宝様に夫婦円満の信仰生活を誓われました。祝宴に先立っては重須孝行太鼓の有志の方々による、祝意の太鼓演奏を頂きました。

本門寺の主な予定

- 令和六年六月
三日 役課会議
四日 重須会門中参拝
相模門中 上行寺様、蓮妙寺様、常在寺様、本禅寺様
十四日 重須婦人会清掃奉仕
二十日 本間俊文先生勉強会
二十七日 興統法縁会宮崎大会
二十八日 重須婦人会清掃奉仕
令和六年七月
十二日 重須婦人会清掃奉仕
二十日 第八回清掃奉仕
二十四日 御大事御本尊会
二十六日 三輪是法先生勉強会

丹精者 御芳名

- 「おもしろ森」発行賛助金
市内山宮 齋藤 繁美様
香華・その他 供養
市内北山 星谷とみ子様
諸堂・境内清掃・作業奉仕
本門寺内 重須婦人会様
本門寺内 重須婦人会様
本門寺内 重須婦人会様
市内北山 望月 正見様
静岡市 紺文シルク様
謹んで御礼申し上げます

司判会開催

五月二十四日、司判会が開かれ、本山より近況報告と令和五年度の決算報告がなされました。さらに、来る令和三年日蓮大聖人第七五〇遠忌、翌十四年日興上人第七〇〇遠忌を迎えるにあたり、今後の事業計画が報告されました。

また、

蓮行坊檀徒・佐野洪二氏

西之坊檀徒・佐藤寛氏

が本会をもちまして司判を退任され、新たに本年度より、

蓮行坊檀徒・赤池洋人氏

西之坊檀徒・鈴木崇明氏

が司判として貫首猥下より委嘱を受けました。退任されるお二方に於かれましては長年に渡り物心両面において当山に多大なるご丹誠を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

大世話人会 発足

本年度より「山林農地部」から「大世話人」へと名称が変更され、五月十四日、役員会が開かれました。

養仙坊檀徒 石川達三氏

養運坊檀徒 松原勝政氏・渡邊和正氏

東陽坊檀徒 富永政則氏・加藤貴之氏

蓮行坊檀徒 遠藤英彦氏・齋藤美英氏

西之坊檀徒 石川剛浩氏・後藤幸夫氏

以上九名が大世話人として委嘱を受けました。今後共、当山の護寺発展にお力添えの程、何卒宜しくお願い申し上げます。

今月の団体参拝

福岡 妙照寺様

五月十四日、福岡県より妙照寺様檀信徒一行四名が参拝され御開帳を受けました。

韓国 寶土寺様

五月二十二日、韓国より寶土寺・免法顯上人が檀信徒ら三十名と共に参拝されました。

神奈川 蓮妙寺様

五月三十日、神奈川県茅ヶ崎市より蓮妙寺・紋田正隼上人一行四名が参拝されました。

京都要法寺本葬

五月二十二日、日蓮正宗・本山要法寺に於きまして、第五十一祖貫首・嘉儀日有上人の本葬儀が執り行われ、旭日重貫首猥下の名代として、鈴木春雄執事長が参列されました。

要法寺様は、本門寺御開山日興上人の高弟・太夫阿闍梨日尊上人の御開山であり、興門八本山にも数えられ、当山とも縁の深い寺院であります。

謹んで嘉儀日有上人の増圓妙道をお祈り申し上げます。

第8回 清掃奉仕のお願い

7月20日(土) 午前9時～10時半 (雨天翌日)

7月の清掃奉仕は、盂蘭盆を迎える為の道場荘厳であります。清掃奉仕によって共に汗を流し、自分自身の心の垢も一緒に流し、清らかな心身でご先祖様をお迎え致します。